



草の根

第41回

No. 9

新日本婦人の会 浜松支部
〒430-0907
浜松市中区上島3-33-6
TEL&fax 464-9881

軍事ではなく平和を！安倍9条改憲ストップ、核兵器禁止・廃絶へ

6月9日東京で「つどう・つながる☆次世代交流会 part2」が開催されました

支部からは、あざれあ班の伊藤真弓さん（リズム部長）が参加しました。

伊藤さんの報告を紹介します。



あざれあ班 伊藤真弓

6月9日、東京で開催された『つどう・つながる 次世代交流会 part2』に参加しました。昨年開催されたpart1に引き続き、2回目の参加です。

会は笠井会長のミニ講座「ジェンダー平等の歴史と新婦人」からスタート。時代とともに女性の地位が変わってきたことなど女性史をたどるお話。2回目の今回は蓄積があるせいか、前回より余裕を持って聴けました。

お話の始まりは、古代の女性について「縄文時代の土偶のほとんどが女性であり、これは女性がいかに自由で尊敬された地位にあったかを表している」と資料の「縄文のビーナス」という女性の土偶の写真を見ながら聞いたお話は、平塚らいてうの「原始、女性は太陽であった」の言葉とつながり、ビビッときました古代の女性たちのことを「太陽」と形容したらいてうは、さすがだなあとしみじみ思いました。

そして、お話は新婦人の歴史へ。資料の「たくさんの『当たり前』をつくってきた新婦人」という見出しには思わずうなりました。すでに定着してしまっていることに異論を唱え「当たり前」にする

というのは、みなさん身をもって分かってらっしゃると思いますが、容易なことではありません。おかしいと声をあげ、行動を起こし続けてきたその熱量は本当に凄いです。#MeTooなどの今日の新しいうねりは、女性の人権を求めるたたかひの歴史のうえにある。その大切な一翼を新婦人も担ってきた。新婦人の草の根運動の力を再認識する機会となりました。ミニ講座の後はパネル発言「若い世代はとにかく忙しくて、自分のことだけで精一杯。仕事や子育てをしながら新婦人の活動なんて、よっぽどの重要性が見いだせないと諦めていく」「3月のリズム卒業時期になって声をかけても、ほとんどの人は新婦人の活動なんて選択肢にない」など、現実をズバリ言った発言になんとかドキドキ。そんな若い世代の気持ちを変えるために、イベントは楽しいだけにならないようミニ学習会のおまけをつける、新婦人の活動について知ってもらい取り組みを入れるようにしているの発言に「新婦人の活動を伝えたい」という基本、これが足りてないなあと反省。そこで午前の部は終わり楽しいランチへ。

午後の部は、分散会交流会。私が参加

したのは、事務局長や県本部委員などをしてしている方が集まったグループでした。まず東日本あちこち県民12名が自己紹介。方言がチラチラ、笑顔も浮かんでアットホームな雰囲気♪しかし、話が弾んでくると「若い世代が少ないから『若い…』とつくと必ず話がくるけれど、私だって全部に参加は無理！」といった本音トークも飛び出しました。（笑）即解決というわけにはいかないけれど、悩みや困っていること自分の思いを話し、共感し、うちの支部ではこんなことを試みたりしてるよという話を聞くことで、いやしと元気をもらいました。

次世代交流会への参加は、日々の生活の忙しさや目の前の新婦人の活動をこなすことに流され忘れがちになっていることを、ちょっと立ち止まって思いだしリセットするいい機会となりました。ともに頑張る同世代の仲間と直に会えることも大きいです。そしてそれは、次世代交流会に限らずいえることだと思います。この感想を読んでくださっているあなたも、ぜひ全国や県本部主催の交流会に参加してみてください。元気をもらって帰れること、請け合いです♪

6・29次世代対策交流会に参加して

全国での交流会を受けて、県本部主催で次世代対策交流会がおこなわれ支部から田中友子さん、伊藤里実さん、布施晴美が参加しました。

にこにこ班 田中友子

県内各支部の活動報告を聞き、意見交換ができて、元気と刺激をもらいましたありがとうございます。

まずは、娘から「エアコンより断然トイレ！」と訴えられていた、小学校の古い和式トイレを、校長先生にお願いして隅々まで見てこようと思います。忙しさにかまけて考えるのをやめてしまいたくなるようなことでも（例えば北欧みたいな教育って良いな…と思っても…）、小さくても、一歩一歩の積み重ねの先に、より良い、より納得できる未来があるはずと

思い直しました。

新婦人の先輩がたが、次世代の私たちは何を求めているのだろうか？って、耳を傾けてくださるので、とても心強く思っています。ありがとうございます。

母子草班 伊藤里実

県内の新婦人の会員のうち、60～70才代が70%を占めているそうで（2018年1月）私もそこに該当します。

予想通りの数字と言え、ショックでした。このままでは、新婦人の57年の歴史・運動を未来へつないでいく人たちがいなくなってしまうのではと心配になり

ます。私たちシニア世代がどう関わりを持っていけばよいのかと思いつつ参加した交流会でしたが、県内各地の取り組み（赤ちゃん体操、さんすう教室、小中一貫校問題、楽ランチ会、みそ作り等々）若い世代の頑張りを知ることができました。



第57回静岡県母親大会in焼津 感想を紹介します

今年の県大会は県下から1640人の参加者があり、つどい・学び・交流しました。支部からの参加は51人でした。



細江班 野沢里子

焼津水産高校の千野先生からの報告です。日本の水産資源の減少要因は・地球の温暖化・乱獲・法整備の問題…etc。北米、北欧、オセアニア諸国では、漁業が成長している。それは国として厳正なATC（漁獲可能量制限）を定めているから。MSC（海洋管理協議会）認証のラベル「魚のエコラベル」－（水産資源が海洋環境を守って持続可能な漁業で獲られた水産物）を東京オリンピックで提供するよう、IOCより指導がありましたが、日本ではこれに該当する水産物（天然）は7種類のみ（サバ、マイワシ、サンマ、マアジ、スケトウタラ、スルメイカ、ズワイガニ）JDCは、どのような対応をとるのでしょうか。リオ五輪では100%がMSC水産物だった。私はこの場ではじめて「魚のエコラベル」を知り恥ずかしい思いをしました。また、千葉から来場の漁師さんから資源保護のために、全国沿岸漁民連絡協議会を結成し、乱獲禁止、問題ある古い制度の改善を国や県に要求しているとの発言。また高知の漁師さんからは「命を守ることは、自然を守ること。原発で使われる大量の海水は水温を高くし、漁場を壊している」との発言がありました。これらの報告を受け漁業の実態を始めて知ることばかりで消費者である私たちは何をしたら良いのだろうか？まず知ること「魚のエコラベル」商品を買うこと（生協・イオンで時々販売）を強く感じました。

のぎく班 吉田由巳子

ちょっと心配していた天気も何とか降らずに焼津駅を降りるとすぐ目の前が会場の焼津高校。親切な案内の方に導かれて分科会会場へ、私は発達障害についての講座に参加しました。私のように身近に障害を持つ子がいる人だけでなく、係りがたぶんこのくらいしか集まらないだろうと用意してくれた）30席を遥かに超えた98人の参加があり、今の時代いかに発達障害をもつ子どもが多く、又それに対する社会の関心も非常に高いことを知りました。昼をはさんで午後からの全体会は枝元なほみさん（料理研究家）による「食べることは生きること」食を通して考える安全、安心、平和なくらしと題した講演でした。その中で特に印象に残ったのは、国が今回種子法を廃止したことについて。それによって生じる様々のことが即私たちの食の安全に繋がってくること、いちグローバル企業のモンサントの手に種だけでなく薬、農薬、遺伝子組み換え食品等すべて食につながるものが握られてしまう恐ろしさを知りました。今回の大会も全体で1640人の参加で盛会のうちに終わりました。参加できて良かったです。種子法について勉強しなくてはと思いました。

神無月班 井上美砂子

焼津駅より徒歩5分の立地焼津高等学校、既に大勢の参加者何処へ行っても人、人、人、様々な分科会でも床スペースしかなく資料不足の所もありました。全体会に於いては校内体育館でオープニング焼津高等学校書道部、書道パフォーマンス、時のテーマに合わせて作品作りそしてチームで一つのを創り上げていく、こちらも人、人、人で後方の床スペースでしたので作品は確認できませんでした。記念講演は枝元なほみさん「料理研究科」一食を通して考える安全、安心、平和なくらしー種子法廃止、遺伝子組み換え等、今私たちの地球は急速に生物の多様性を失っている、日本の伝統野菜等も減少、多様性は誰が守れるのか？農業は産業ではないと思いました。

そして母親大会の原点となったビキニ水爆被災から65年、又半世紀以上もの歴史がある今大会、総参加人数は1600人余り。次の日本大会の分科会参加への話をしつつ帰路につきました。

班紹介しま〜す

あざれあ班

こんにちはあざれあ班です！！

青野多恵子

班員は10人余りです。今取り組んでいるのは、「今年の静岡市で開催される日本母親大会に、なるべくたくさん班員が参加できたらいいね！！」それなら班から交通費や参加費を援助しよう…と、地域のバザーに出店をする準備をしています。いつもの古着・雑貨に加えて、多肉植物の鉢植えをだし、今までの収入を得るよう頑張ります。また、小組では「新聞ちぎり絵&一閑張り」を月2回、佐鳴台協働センターの講座室で開催、「季節の薬膳料理」は青野の自宅にて月1回開催しています。お試し参加もOKです。詳細は青野または竹山までお問合ください。

青野多恵子090-6364-8239 竹山美穂090-3259-1167

わかめ班 田中イサエ

1954年3月1日焼津港から出発したマグロ漁船「第五福竜丸」がビキニ環礁でアメリカが行った水爆実験により「死の灰」を浴びた事件に抗議し、昭和29年9月22日「原水爆禁止・補償要求大会」が焼津で開催されました。社会人になったばかり「ストックホルムアピール」の署名を一生懸命集め、新卒の「スズキ織機」を解雇された私はその集会に参加しました。その時以来65年ぶりの焼津市でした。母親大会では最近よく聞く発達障害の講座に参加し、その盛況ぶりに驚きました。以前から発達障害と思われる子どもはいたわけで今更と思うのですが、あらためて子育ての大変さ、複雑にみえる世の中の変遷に驚いた一日でした。

かすみ草 石塚欣子

分科会NO14「性と人権セクハラ#MeTooってどういう問題」助言者の角田由紀子弁護士のレジメに基づいて報告がありました。参加者全員から、この分科会に参加した意義と問題が出された。教育現場で働く人は性教育は学校からと思いつつも、現場では容易ではないと…。この分科会に参加するまで、自分は特に被害がないし他人事だと思っていたが、参加者の発言や、家庭での男女差別があることにも気づくと意見もあり性暴力被害者のワンストップセンターや国連での取り組みや今の司法の在り方など、今抱えている問題点も出されました。

かすみ草 田中みよ子

第57回県大会で「社会保障としての年金」の司会をさせていただきました。公の場での司会は、余り経験がないので、とても緊張しましたが、経験豊富な3人の方に支えていただき大役を果たすことができました。会場は予想通り部屋いっぱい約71名の参加がありました。やはり年金について不安、不満が多いことを感じました。中澤先生のスライドを通してのお話の中に「老後の生活にはどのくらいお金がかかるのか」の表は最低の生計費（夫73歳・妻70歳）ですが、普通に生活するだけでもかなりかかります。皆さんのお話の中にも、蓄えを取り崩しながらギリギリの生活を送っている。子どもに援助してもらわなければいけないなど本当に身につまされる声をたくさん聴くことができました。多勢の方に思いを語っていただき私も学ぶことができました。若い方が最後に話してくれましたが、こういうことを知りたかった。参加してとてもよく分かりましたと言ってくれたことに感動しました。年金については難しいですが、よく知ることが大事だと思いました。このような機会があればまた参加したいと思います。